まい らぶ・カワセミ by 栗林幸彦

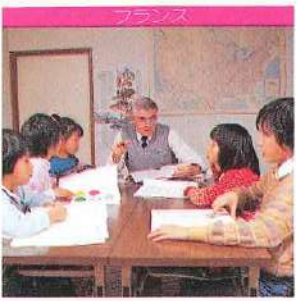
えくてびあんレポート

あなたペラペラ? ハイ、わたしペラペラ!

国際色だよ立川の街

ワールド英会話スクール

☎31-3746 一番町2-33-34

西武立川駅前にある当スクールは「英語」を看板にしてはいるが、フランス語、スペイン語、ドイツ語と幅広い語学教育に取り組んでいる。すべて外国人講師によって学べるのが特徴。フランス語教室をのぞいてみると、なるほど、日本語は一切使わない。一見、大変そうなのだが、内容は実にホット、ざっくばらんで家庭的ふんいき。楽しみながら、あっという間に授業は終ってしまう。そこに人気の秘密があるようだ。

一クラス平均6人の少人数、5才から50才前後まで年令層は幅広い。入学金1万円。月謝はレッスンの回数によって異なるが、大人週一回7千5百円。経営者はゲリー・ネルソン氏。

フランス

イスパニスタ

☎22-2969 柴崎町3-6-3

立川駅南口「すずらん通り」の入口近くにある、スペイン語専門校。イスパニスタとはスペイン語にかかわりのある人という意とか。当校主宰者の櫻庭雅子さんがスペイン留学中に「日本へ帰って学校を開くときには」と恩師から贈られた校名。

ほかにスペインとペルーの先生がいる。少人数制でスペインで発行されている教科書"ESPAÑOL EN DIRECTO"の使用で生きたスペイン語を学んでもらいたいという意欲にもえている。受講料は一ヶ月1万5千円ほかに教材費が2千5百円。

仕事でスペイン語が必要な人、留学を志す人、海外旅行をより充実したものにしたい人などの熱心な授業風景だ。

スペイン

ブリタニカ・アメリカン・ヴィレッジ

☎26-855 曙町2-17-5 杉田ビル

日本ブリタニカが開発した独自のメソッドで"努力しないで"英語を身につけてもらおうという。

忍耐がともなうから、長続きしない。ここでは"遊び半分"の気持ちを大切にしている。もっとも今日のカリキュラムにたどりつくまでに、各国の言語学者から知恵を集めて10年かかったという。

扉をあけると「ここよりアメリカ村」というふんいき。幼児教育が主流をなすのは、人間の生理学から割り出され、教育法は全て"合理"に裏づけられている。入学金、1万円。月謝、1万円。好みの時間、好みの先生が選べる。

アメリカ

多摩中国語講習会

☎23-0708 錦町2-2-11

こんなところに、と驚くであろう。錦町二丁目、細い路地を入ったアパート入口に「多摩中国語講習会」の看板がみえる。中へ入ると、八帖間くらいだろうか、熱心に中国語を復唱する声がきこえる。

寺子屋といった授業風景である。ここは自主運営であり、持ち回りで委員をつとめ運営にあたっている。

上、中、初心者と段階がわかれ、一週間を上手に利用、教室にあてている。

中、上級になると先生は中国人、したがって日本語はほとんど交えずに授業がすすめられる。

日中友好を願う有志の方によって十年以上も前にはじめられたユニークな教室。会費は入会金、千円。六ヶ月分会費1万8千円。

中華人民共和国

CEC外語センター

☎27-2444 柴崎町3-- 昴ビル

CECとはセントラル・エデュケーション・コミュニティーの略。ゲーテインスティテュートの共働校であるため授業もすべてゲーテ方式。これは西ドイツ政府から補助金をうけて、ドイツ語を外国にひろめるために存在する民間の協会で、ドイツ語教育のプログラムは定評がある。

今日の先生はミュンヘンからきたレリッヒ先生の授業をのぞいてみた。

「日本人はいろいろな所で遠慮しすぎます」と鋭い批評。生徒が活発に話せるように気をくばっている。

授業後に、ときには先生と生徒が一緒に食事に行くなどして生活の中の会話にも心がけている。

入学金1万円。1時間20分の授業が10週で4万5千円。英語、フランス語の授業も充実している。

ドイツ

お買物は伊勢丹

立川伝言板

★"下町の玉三郎"が立川へ

梅沢富美男公演は3月17日、午後1時と4時、於市民会館。プログラムは「夢芝居」、「小椋佳の世界歌謡ヒットパレード」、唄い踊る相舞踊「女形の艶姿」。問い合せ先イケヤ企画（☎0550-3-6511）

★講演「楽器づくりの楽しみ――音楽を発見する」

古楽器制作者、松本公博さんによる体験からにじみでる講演は、3月30日午後2時より、中央公民館にて。

★高橋竹山、当市で初公演

竹山といえば津軽三味線で世に知られるが、立川公演ははじめて。津軽三味線ひとすじに六十年、ひたむきないのちの響き、豊かな人生経験に裏打ちされたバチさばきと、聞きどころ見どころいっぱいの公演「津軽のひびき」は3月27日午後6時30分、於市民会館。問い合せ先、高橋竹山三多摩公演実行委員会（☎73-0437）

★田辺修展が、たましんギャラリーで

二紀会所属の田辺修展が3月7日～19日。立川駅北口、たましん本店9F。

★高島屋立川店で「大皮革市」など催物多数

「大皮革市」はクツとハンドバッグが中心で3月14日～19日。また「春のレディースファッション祭」での春物大提供は22日～26日。「男の専科バーゲン」で紳士もの衣料や雑貨に掘り出しもの多数。

★中央公民館3月の映画会案内

3月23日午後2時より。上映フィルムは「核戦争後の地球　第1部地球炎上」昨年NHKから放映され世界的反響をまきおこしたドキュメント。「細川紙の美を漉く」埼玉県小川町重要無形文化財"細川紙"を守る人々。「麦死なず」亀井文夫監督、砂川三部作の第二作目作品。

首都圏に拡がる
とみん銀行
暮らしに、ご事業に
お役に立つよう
努力しています。

国際色だよ　立川の街

英語版

「えくてぴあんレポート」では立川で学べる各種語学教室を取材したが、もしあなたが「国際語はやっぱり、英語」とお考えなら、そしてあなたがもっている英語力を更にブラシュアップしたいなら、次の四校をご紹介しよう。

★

■ジエム英語学院（柴崎町3-24-6　パルタージ5F ☎27-7094）

ここは「学研」の直営であって、学習方式がしっかりしている。「フォニックス方式」といわれるシステムにのっとり、常に外国人講師と日本人講師がペアーで、正確な発音とあいまいな点をクリアーにしてゆく。

中高英語コース、成人コースなどあり幼児教育にも力をいれている。四才から小学六年までは入学金8千円、月謝8千円、火木土週三日の授業のうち都合のよいクラスを週一回選べる。

■USA英会話学院（柴崎町3-5-3渡辺ビル2F ☎28-2882）

落ちこぼれをださない、誰もが必ず英語を"上手に"話せるようにあらゆる策をねってきた成果がここ立川校にあらわれている。フォーカス・マス・メソッドとよばれる当校独自の徹底した訓練と、外人講師との会話で思い切った冒険を試みる。ロビーでは活発なフリートーキングでの学生の姿が印象的。入学金1万円、一般コース昼間九万九千円（年間）。

■立川英語学院（柴崎町2-9-4 ☎22-3432）

昭和22年に創立というから、すでに40年近くの歴史をもつ。米会話科では初級、中級、上級とわかれアメリカ人講師によって授業がすすめられる。「体験一日入学」というユニークな制度もある。"辞書にはない、生きた英語"がモットー。上級では社会情勢について英語でディスカッションできる。入学金1万円、月謝1万3千円、ほかに設備冷暖房費など。

■エンコ米会話学園（富士見町2-20-15　パークビューハイツ6F ☎27-7005）

アメリカ人講師と日本人講師が小規模であるが内容の濃い教室を運営している。

仕事の必要性から会話を学ぶ人、特に外資系のビジネスマン、それに学生が多くみられ、また子供たちの熱心な学習風景もみられる。英語の幼児教育がさけばれているが、ここではなるべく小学生以上を希望している。月謝7千円、子供5千五百円。

表紙は語る

カワセミ詩人　栗林幸彦氏

よくカメラマンにありがちな職業的なニオイは全くない。それもそのはず、栗林さんのカメラはカワセミたちとの交流を確認する道具にすぎない。

愛車のジープを秋川の岸辺に走らせ、終日カワセミと語り合ってあきることがない。むしろ、詩人である。

栗林さんご自身のペンによる、「一羽のカワセミと私の交流記」の中に、彼はその詩心をちりばめている。

「不思議なもので、毎日一羽の同じカワセミを見ていると何か鳥という感じがしなくなり私にとって友達みたいな感覚になってしまっている様に思えてくるのである。表情も色々と変わり……いつしか私に対しても気を許している事が判る様になってきたのです」

昨年の夏、立川駅ビルで個展を開き市民の人気を集めたのは記憶に新しい。テクニックを超えた栗林さんの"愛情"に心うたれた人も多かったのではないだろうか。

『カワセミの詩（うた）』を50冊　本誌から読者プレゼント

今月の表紙を飾ってくださった栗林幸彦さんには『カワセミの詩』というすてきな写真集があります。四季を通して著者がカワセミと語り合った貴重な記録帖であるともいえます。

本誌では一人でも多くの方々に読んでいただきたいと、読者プレゼントを企画いたしました。官製ハガキに住所・電話番号・氏名を明記のうえご応募ください。●先着50名さま●著者サイン入り●あて先は立川市柴崎町2の4の11ファインビルディング3F「えくてぴあん編集工房」。

立川の線路（上）

中野　明

中央線の立川駅は、東中野から延々と続いた直線コースが尽きて、南へ向きを変えるところにある。東京起点三七・五キロ。

この立川は隣りの八王子と並ぶ東京西部の鉄道の要衝である。中央本線を中心に、青梅線、南武線の分岐駅として賑わいを見せている。

立川駅の開業は明治二十二年四月十一日、中央線の前身である甲武鉄道の新宿―立川間の開通による。同年八月十一日には八王子まで開通。

昨年の夏、"甲武鉄道（立川―八王子間）開通九十五周年記念"と銘打った記念入場券が発売されたのも記憶に新しいことと思う。

さて、この甲武鉄道だが、計画当初は甲州街道沿いに建設される予定であったが、煙害や宿場町としての衰退を恐れる沿線住民の反対により、計画変更を余儀なくされた。

一説によると、怒った一人の技師が地図の上に定規を投げ出したところが現在の路線だという。

ちなみに、後に甲州街道沿いに敷設されたのが現在の京王線で、新宿―八王子・高尾間で中央線とホットなレースを、繰り広げている。

現在、立川駅は北口と南口を結ぶ連絡通路の完成により大きな変貌を遂げ、開業当時の駅周辺を偲ぶ術もないが、立川市民会館大ホールの緞帳に当時の様子が描かれているので、ちょっと覗いて見るのも一興かと思う。

なお、甲武鉄道の国有化は明治三十九年十月のことである。

立川クイズ〈第三回〉

立川市の南端に位置し、市民のやすらぎの場としても、また最近ではサケを呼びもどそうと、浄化にも市民の関心が集まりだした多摩川です。

さて、この多摩川の水源地はいったいどこでしょうか？

①東京都　②埼玉県　③山梨県　④長野県

えくてぴあん豆事典　ひな祭り

三月三日は、ひな祭り。「桃の節句」ともいわれ、男の子の「端午の節句」に対し、女の子の祭りとして雛人形を飾り、白酒をいただいて祝う習慣はご存知の通り。

この桃の節句、もともとは中国の行事で、字の方も「節供」が正しく、五節供の一つにあたる。

五節句には人日（じんじつ）、上巳（じょうし）、端午（たんご）、七夕（たなばた）、重陽（ちょうよう）とあるが、ひな祭りは「上巳（じょうみ）」にあたり、三月最初の巳の日に川原で詩を吟じたり、飲食をしたりした中国の習慣がもとになっている。

平安時代に日本に伝えられたものだといわれるが、日本には聖徳太子の頃から雛の遊びという幼女の遊びがあり、時代はくだって徳川五大将軍綱吉の時代に、三月三日の行事と定まった。

ところで、桃の節句に縁の深い桃は、中国では邪気をはらう仙木とされ、日本の雛遊びの人形は罪、けがれをはらうものだったという。

こうしてみると昔から、親が子を思い、無事に大きくなってほしいと願う気持ちが桃の節句の中には込められていることがよくわかる。

今のように、雛段をしつらえるようになったのは、三〇〇年ほど前の江戸時代、元禄期以後ということで、最近は何段飾りというように大変豪華になってきた。時代によって多少の変化はあっても、わが娘をおもう親心が変ろうはずもない。

真如苑だより

すっかり春めいた陽射しになりました。お元気でしょうか。毎月おこなっております真如苑の精舎参観です。春一番、どうぞお出掛け下さい。当日はざっくばらんな質問をして頂き、当苑への要望などもお聞かせ下さい。お待ち申します。

●日時　3月23日(土)　午後2時から4時まで。

●御本尊、真如宝物館のご案内をはじめ、映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

●立川市民（成人）に限らせて頂きます。

●お申し込みは「えくてぴあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

編集室から

●外国語学校を取材してみて、案外といろいろな国の言葉が習得できる街なのだな立川は、と思った。この他にもインドネシア語、朝鮮語などの教室も載せたかったが、教室側の事情などで割愛したのは残念。●国際色という意味では、立川は基地の街であった頃からの伝統かも知れないが、教室の中は明るく健康的で"あすへのキボーがわいてくる"といったどこかのコマーシャルの文句そっくりの雰囲気があふれていた。●カメラマン、というよりもカワセミだけを撮るカメラマン、栗林さんはついこの間までダンプの運転手をされていたそうである。荒い仕事をする人には心やさしい人が多いというが、本当らしい。●えくてぴあん　ひと雨ごとの　あたたかさ

（編集）青木智司　吉家典子　加賀桂子　神山清子　隅川　理　須見敏子　二橋卓治　矢野義範
（写真）天野武男　吉田義治　スタジオ269

月刊えくてぴあん　第8号
昭和六十年三月五日　発　行
発行所　えくてぴあん編集工房
東京都立川市柴崎町2-4-11
ファインビルディング　3F
電話　〇四二五(28)0082
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　株式会社　立川印刷所

La Carte de la France
TACHIKAWA
WATASHINO-E HAGAKI

ボンジュール，立川の皆さん！
今年の冬は稀にみる寒さで，パリの人たちをびっくり
させました。この写真はなつかしい，立川の皆さんに聴
いて頂いた「ウィル・スペシャル」の時に演奏したもの
です。私はいつも素晴らしい聴き手と素晴らしいゲスト
に恵まれるのですが，この時もピアノにジャン・ベルナール，アコーディオ
ンにパスカル・ループル，そしてフルートはこの清楚なベルディーン・ステ
ンベルグの澄みわたった音色でした。次の機会にポール・モーリアを皆さん
が聴いてくださるのはTachikawaで，
それともParisで？ では，近々に。

ポール・モーリア